

アートの **灯** が 心の距離を 取りもどします

～文化の家の取り組み～

生田 創 長久手市文化の家 事務局長補佐兼事業係長

いよいよ年の瀬となりました。早いもので世界を席卷したコロナ禍の到来から一年が経とうとしています。昨年の今頃は誰も予測しなかった世の中になってしまいました。

じきに1月から

新型コロナウイルスの感染拡大により3月より文化の家スタッフは「利用できません」「集まらないでください」と言わなくてはならなくなってしまうました。さらに心を痛めたことは、創造スタッフをはじめ多くの地元アーティストが活動の場を失ってしまったことです。年内の自主事業のほとんどは中止や延期となり、もちろん安全第一ですが、自分たちはなぜこの仕事をしているのか、考えざるを得ない日々が続きました。



モデルコンサート

お隣の瀬戸市文化センターと連携して「新型コロナウイルス感染症予防モデルコンサート」の企画を行いました。海外や国や県、市の指針や事例などを吟味し、実践のノウハウを劇場間で共有しようという試みです。

定員50名に限定した公演は満席となり、このような状況下でも足を運んでくださったお客様との久しぶりの再会は本当に感慨深く、出演した長久手市在住のヴァイオリニストの平光真彌さんは「3か月ぶりに弾いた最初の一言で、お客様と一体になる実感をえました。本当に幸せな瞬間でした」と語っていました。

少しずつ進む

このモデルコンサートをきっかけに月1回のペースでコンサートを開催してきました。そして、世の中の動きを見ながら少しずつ客席数や

公演内容などの規制を緩和していきました。お客様からアンケートをとり、安全対策を講じながら再び文化の家へ足を運んでくださることを願い、信頼を築いていく地道な歩みでした。



第1回モデルコンサート(6月23日)で演奏する「ゆつたりカルテット」

年明けの目玉2本

10月から国の方針として、十分な感染対策を講じて、うえで客席100パーセント入場可能など、大幅な規制緩和のガイドラインが

示されたことが、文化の家としても劇場をより開いていくきっかけとなりました。年明けの目玉は2本、近年注目を浴びる若手サククスプレーヤー加納奈実によるJAZZ長久手公演(2月12日)と、過去にも好評を博した「鬼社の「ザ・空気」シリーズの「ザ・空気 ver.3」(2月27日)佐藤B作、神野三鈴、和田正人ほかです。

今回のJAZZ長久手は、名古屋出身の加納奈実(サククス)をリーダーとし、駒野逸美(トロンボーン)、永武幹子(ピアノ)ほかによるクインテットです。いずれも日本のジャズシーンの最前線で活躍する若手実力派で、東海地区では初の顔ぶれとなる長久手だけの特別なセッションです。

「ザ・空気」は、完売必至の人気シリーズ作品。数々の受賞歴を持つ劇作家永井愛の最新作で実力派俳優や旬のキャストを交え、「報道現 (2面に続く)